

## あ と が き

平成 20 年 3 月に新しい幼稚園教育要領と保育所保育指針がともに告示され、平成 21 年 4 月から全面実施となりました。今回の改訂では、保育指針との整合性や小学校との連携は言うに及ばず、預かりの保育や子育ての支援など、これ迄以上に家庭や地域を含めた「つながり」という事がクローズアップされているように思います。その骨子は、平成 17 年 1 月に中央教育審議会答申「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について—子どもの最善の利益のための幼児教育を考える—」で、提唱された 7 つの重点施策にうかがうことができます。

本園は、その施策の中でも特に「発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実」について、附属学校園としての役割を考える上でも、地域に発信していかなければならない立場と言えます。しかしながら、実際のところ発達や学びをつなぐカリキュラムを編成するに至っていません。

そこで、私どもは平成 16 年度から 3 年間、遊びの中での学びを探り、その学びを小学校へつなごうとしました。そして、それまでの研究で得た学びの内容を平成 19 年度からは、「学びをつなぐカリキュラムの編成にむけて」と題し、研究を推進し今日に至っています。

特に本年度は、幼児の思考する姿をサブテーマに掲げました。それは、幼児らの「学び」を探る中で、それぞれの思考のアプローチの特徴が見えてきたからです。そのことから、幼児の思考する姿を再度見つめ直すことにしました。実践では、「幼児の思考する姿」を「幼児の思考を促す教師の援助」と「環境の構成」の両面より省察し、その成果をここにまとめました。

成果は一握りかも知れませんが、「ひと」「こと」「もの」としての環境の構成が、如何に思考力を育む要因を担っているか、改めて学ぶ機会になりました。また、一覧にまとめる事によって、育ちの特徴が明らかにもなりました。今後は、小学校の協力を得ながら、学びをつなぐカリキュラムの編成にむけて、研究を重ねていきたいと考えています。

これまでの研究に、ご指導いただいた多くの先生方に厚くお礼申し上げ、今後の研究の更なるご批判ご指導をお願い申し上げます。

平成 21 年 6 月

副園長 池田三津子